

## 令和7年度 第3回恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

〔開催日時〕 令和8年2月12日（木）10:00～12:00

〔開催場所〕 恵庭市役所第二庁舎 2階 大会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委員／佐々木 保（有識者）  
佐々木 英明（北海道文教大学）  
高橋 和子（恵庭市PTA連合会）  
吉田 かおり（恵庭市校長会）  
山口 広宣（恵庭市教頭会）  
数井 雅之（学力向上アドバイザー）  
平井 梓（恵庭市社会教育委員）  
河内 紀彦（北海道ハイテクACアカデミー）

事務局／教育長、教育部長、教育総務課長、教育総務課主幹、教育総務課主査（学務）、教育総務課主査（教職員）、教育総務課主査（総務）、指導主事、指導主事、教育総務課主事、教育支援課主査

〔内 容〕 ※議事に入るまで、教育総務課長 藤野が進行

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 教育長挨拶
4. 議事 ※事務局より資料に基づき説明。
  - 1) 学力・体力向上に係る予算（案）について

### ①学力向上

事務局：「標準学力検査の実施および英検 IBA・ESGの実施」については、665万7千円で令和7年度とほぼ同程度となっている。「標準学力検査NRT」については、令和7年度と同じ内容での実施を予定している。「英検 IBA」「英検 ESG」については、北海道教育委員会で開催しており、現時点で次年度以降の実施については未定となっている。「ALTの配置」については、1,801万8千円。「外国語指導に係る地域人材の活用」については、201万9千円。「教職員への研修」については、講師謝礼として15万2千円。「ICT教育の充実」については、1億9,272万7千円。「学習支援員等の配置」については、学習支援員が756万5千円、特別支援教育支援員として9,143万6千円。

「地域による学習指導」については、学校運営協議会の各校への交付金等に186万4千円となっている。

## ②体力向上

「体力向上プランの作成」については、学校訪問でのプランの助言を行っており、予算額はなしとなっている。令和7年度運動習慣調査において、保健体育の授業が「楽しい」と回答した小学校児童は全国・全道平均と比較して、男子はやや下回り、女子は下回っている。「体育授業への支援」について、ハイテクACから指導員を派遣する費用36万円、「恵庭市小学校等体育実技研修会の実施」については、15万2千円となっている。こちらは教職員研修全体額である。「小学校水泳授業における民間プール施設等の活用」について、1,031万8千円。令和7年度は4校で実施していたが、市民プールの老朽化により民間プールを使用していた島松小学校に市民プールが令和8年度に開設される見込みのため令和8年度は3校で実施予定となっている。「部活動指導員の配置」については、263万円。令和8年度に現在の5名から7名に増員申請している。「部活動の地域展開」については、308万円。令和7年度に引き続き、スポーツ協会と連携した人材バンク事業を継続する予定となっている。

## 【質疑応答】

**委員：**学習支援員の配置について、令和8年度の配置校は今後決定と記載があるが、いつ頃決まり、支援員の方は何月から来ていただけるのか伺いたい。

**事務局：**支援員の配置決定については3月末には決めたいと思っている。学テの結果など総合的に判断させていただき、配置校を決めさせていただきたい。配置の時期については、4月1日から入れるように調整をしている。

**事務局：**補足。教職員の研修について、生成AIの研修を実施したところである。内容も良かったと言われるが、生成AIの活用について非常に教職員の方の関心度が一気に高まったという印象を受けている。

## 2) 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

**事務局：**「1 調査の概要等」について、本調査の目的は、国においては施策の成果と課題を検証・改善すること、恵庭市においては、継続的な検証改善サイクルを確立すること、学校においては、体育・健康に関する指導を改善することなどを目的に毎年実施されているものであり、小学校5年生・中学校2年生が対象学年となっている。

調査の内容として、体力・運動能力を測定する8種目からなる体力テストが用いられているほか、児童生徒や学校に対して運動習慣や指導の状況などに関する質問紙調査が一緒に行われている。今年度は4月から7月までの期間で学校において実施され、本市で

は小学生528人、中学生488人が参加した。

なお、本市においてはこれまでも調査の目的を損なうことのないよう、平均の記録や調査結果の直接的な数値による結果は公表しておらず、⑥にお示ししたとおり記号を用いて全国・全道平均との比較の状況を表している。

次に小学校の結果について、はじめに①実技調査の結果（小学校）について、表には握力からソフトボール投げまでの8種目の状況とそれらを総合した体力合計点の状況等を記しているが、男子では、「反復横跳び」は全国・全道平均をやや上回っており、「立ち幅跳び」は全国・全道平均を上回っている。「20mシャトルラン」は全道平均をやや上回っており、それ以外は全国・全道とほぼ同程度となっている。女子では、「反復横跳び」は全国・全道平均をやや上回っており、「20mシャトルラン」は全国・全道平均をやや下回っている。また「立ち幅跳び」は全国平均を上回り、全道平均をやや上回っている。それ以外は全国・全道平均とほぼ同程度という状況である。

②の児童質問紙調査の結果では、運動が「好き」と回答した割合について、男子は全道平均と同程度で、全国平均よりもやや上回っているが、女子は全国・全道平均と同程度である。また、体育授業が「楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均と比較し、男子はやや下回っており、女子は下回っている。

次に③実技調査の結果（中学校）について、男子では「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」は全国平均をやや上回っており、全道平均を上回っている。「上体起こし」「長座体前屈」は全道平均をやや上回り、それ以外は全国・全道平均とほぼ同程度の状況である。女子では全国平均と比較して、「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」はやや上回っており、全道平均と比較すると「長座体前屈」でやや上回り、「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」で上回っており、その他は全国・全道平均とほぼ同程度である。

④生徒質問紙調査では、運動が「好き」と回答した割合について、男子は全国平均を上回っており、全道平均をやや上回っている。女子は全国平均をやや上回り、全道平均と同程度の状況である。保健体育の授業が「楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均と比較すると、男女ともにやや上回っている状況であった。

今後においては、報告書及び概要版についてHP等で公表するほか、特に小学校における体育授業が子どもたちにとってより一層楽しいものとなり、運動の楽しさを獲得し、その習慣化に繋がるよう、実技指導に専門性を有するクラブ等とも連携を強化しながら、小学校体育授業の支援など子どもの体力向上に資する施策の充実に努めていきたいと考えている。

## 【質疑応答】

なし

## 5. 意見交換

**委員：**2点ある。1点目はICT活用の充実について、今年度は学習用ソフトの活用を行ったということであったが、入れているソフトの内容の変更点があるのかどうか、また生成AIに関する研修会の内容について、例えば生成AIに関する児童用の生成AIソフトも開発されているため、そういったものの導入検討があるのかどうか。

先生方が生成AIについて、どのような研修をするのか、業務系の研修なのか、児童の活用についての研修なのか、そういったところも含めて教えていただきたい。

2点目は体育の授業について、小学校で授業が楽しいという児童が全国・全道平均と比べると下回っているが、中学校になると、好きという生徒が多い。これは昨年度と比較してもあまり大きく変わっていない、なにか傾向があるのかなと思ったのだが、この教職員の体育研修について例えば中学校と合同の研修会という形で行われていたのかどうか、また、研修会の内容について今後どのように考えられるのか教えていただきたい。

**事務局：**生成AIの教職員向け研修については、基本的に生成AIとはどういうものかという基本的な確認から始まり、例えば授業の子どもたちの評価の部分、既に教職員の方が現場で活用できるような具体例を示しながら、実際に生成AIで試してみようというような実践的な内容の研修である。

**事務局：**講師として、札幌国際大学の安井准教授に来ていただきウィンターセミナーでご講演をいただいた。その中で、授業における生成AIの活用ということで68名が研修を受けていただいた。内容については業務で活用できるような内容、授業の中での内容と大きくその2点である。

**事務局：**もう1点の体育授業における先生向けの研修について、昨年度ハイテクACのご協力のもと走り方の研修を小中合同でさせていただいた。ただ、実施時期や内容も含め、まず1回やってみたのを踏まえて今後どうしていこうか。というのは検討していく必要はあると考えている。基本的には継続の方向での検討ということで考えているところである。

**事務局：**先生方の研修であるが、昨年度のこの会議を踏まえ、子どもたちの50m走の記録に資する研修の内容ということで、ハイテクAC河内さんの協力をいただきながら、ゴールデンウィークを挟んで運動会前にやらせていただいたところである。先生方からも内容的にはすごく好評で、素晴らしい施設で走ることができたという成果がある一方、残念ながら怪我人も出てしまったため、その点は次年度に活かしていければと思っている。また、先生方の日常的な研修の中で、なかなか体育に特化した研修というのは非常に難しいところで、体育部に所属していないとその授業の専門性を向上するような研修になかなか触

れる機会がなく、十分に受けられているということについては、やりきれない側面もあると捉えているところである。

**事務局：**補足。先ほどお話ができた走り方教室については、中学校にもご案内をさせていただいており、中学校からも1名参加があった。ただ中学校の方は専門の体育の先生がいらっしゃるため、参加人数が少なかった状況でもあった。

**委員：**児童生徒の生成A Iの活用実態について、もう少し把握しておいた方がいいのかなど思っている。また、児童生徒の生成A I活用力を育てる必要があると考えているところである。運動については、具体的なやり方を教えてもらいつつ、小中の先生方で同じような研修の場で普段どういうふうに授業をしているのかだとか、子どもの様子なんかを交流することで、そのノウハウが共有されていくと良い部分が影響されていくのではないかなど思ったので、継続していただきたい。

**委員：**体力の向上を図るというところで、私の観点からすると意欲があれば運動するから体力が上がる。と考えている。そのため私のクラブでもまずは意欲を大事にしている。そういう意味では先生方がまず好きにならないといけないと思う。そのための研修も必要ですし、あとは体育の授業のコマ数で今1学年1クラス1回みたいなコマ数だったかと思うが、果たしてそれで先生方や子どもたちに意欲を身に付けさせ、体力向上に繋がるのか不安はある。継続的にやってもらった結果、体力向上に繋がればいいが、今の内容だとすごく難しいと感じている。ずっとある課題がこのコマ数で、どうクリアしていくかを目的としていたので回数が増えればいいとは思いつつも、そう簡単なことではないのは承知している。先生方の研修もアカデミーの方に来てもらって、先生に楽しくなってもらおうと思っておこなった。体を動かす楽しさをどう補うかという課題はまだまだ山積みだなというところが現状である。

**委員：**ハイテクACさんにいつも来ていただいて本当に助かっている。走り方教室は、なるべく学年から1人は行きなさいという風に案内している。動画を後から全体で見返すと、やっぱり行きたかったという先生も結構いる。また、鉄棒でも教えに来てくださった。本当にプロはすごいなと先生方は実感としている。本校は冬になると、低学年の先生は4時間授業になってしまう。そのため午後から低学年にいる体育専門の先生たちを高学年、中学年に配置し、多くの人数で体育の授業をさせていただいている。危ないことでもたくさん目があれば、子どもたちの挑戦の幅が広がるのかなど思っているところである。

**委員長：**私も子どもたちに関わっていて体育に限らず楽しさをどうやって教え、感じさせるかに頭を悩ませる。社会や英語なんかはものすごくたくさん覚えることが多い。でもそれがわかるようになっていくと、楽しさを子どもたちから感じるができる。特に私は教室に入れないうちに携わっているので、どちらかというと、学習に対して諦めていたり、

あまり興味を持ってない人たちが多く、好きにさせる・できるようにさせる、そこの指導に関わる先生方がいかに楽しいと思えるかが凄く重要だと感じる。意欲を高めるための教員の指導力をどう高めていくかというのも大事である。

**委員：**先ほどの体育の話であるが、児童のアンケート結果に出ている「どんなときに体育の授業が楽しいのか」という質問で、「できるようになったとき」という回答は恵庭市がかなり高い。その中で、ソフトボール投げについては、できるようになったのかどうかがよくわからない種目でもある。体育の中でもボールを投げる活動、それだけに特化した活動そのものはない。やはり先生たちも体育授業の中でボール投げのことを教えるという習慣がないし、この記録を測るときだけ数時間やるため、実際のところボール投げは何が大切なのかということがわからない状況で先生たちも教えているなというところである。例えばボールの握り方についても、どうしても先生方は野球ボールの投げ方で教えてしまうことが多い。どのように腕を動かし、振るのかという細かいところも指導が足りない部分である。やはり楽しくなる動機付けをどういうふうに付けていくかということも小中学校ともに考えていかなければいけないのかなというふうに思う。そんな中で生成A I のことも話題に出たが、管内的に見ると他の市で生成A I を準備してもらった市はものすごく少ないのが現状。恵庭市はかなり早く準備していただいて相当色々なことができる環境を作っていただいて先生方も大変感謝している。

若い先生は学級通信を書くのに苦しむ姿が見られる。授業の準備だけでも大変なのにそれプラス学級通信も作成しないといけない状況でつつつつになる。一方隣の先生は毎日のように学級通信を出している。この差はA I を活用して作成しているものであった。すごく便利でありがたいなという思いと、子どもたちもいずれかは使い方を正しく使えるように覚えていく必要があるのかなというふうに思った次第である。

**委員：**今予算案が出てきている中で、この効果をなに見るのかというのはすごく難しいというふうに思っているが、調査自体の前年度比があって、そこを効果としてみるのも一ついいのかなと感じた。この効果を数値化して見えるというのは凄く大事だと思う。公表しなくても、この会議の資料だけでもこれだけ伸びているというものがあると、逆に伸びていないところはどこなのかを取り組みに活かせるのかなと思った。また、生成A I に関して、私は中学生の息子がいるが、自分自身は完全に息子に教わっている状態である。使っている子どもはどんどん使うので、完全に先生よりも先に行っているのではないかとすごく感じる。作文なども、A I チェッカー等がもちろんあるためそのまま提出したら引っかかると思うが、使いこなしている中学生は生成A I で人格を五つ六つ作り、そこにそれぞれの価値観を持たせそれぞれに作らせて、それをドッキングした形でいろんな価値観を組み合わせた作文を作り、自分の思いを入れて手直しするというような使い方をしている

生徒がいておかしくない。大学はもうそういう感じで作っている方がたくさんいるのではないかと思っている。そのため、なかなか生徒にこれから教えるということ自体難しい部分もあるのかなというふうにも思う。私も息子に生成A Iの使い方をどこで教わってきたのかって聞くと、生成A Iの使い方を、生成A Iに聞くと言っていた。今はそういう時代なんだなというふうに感じたし、それこそ大学受験の勉強すら出そうな問題を作ってほしいというふうに、生成A Iに投げかけて練習モデルを作っている人もたくさんいると聞いているため、なかなか先生たちは難しいとは思いますが、誰か1人でも子どもたちと同じレベルで話せる人がいると、不正の予防に繋がるのかなと思った。

**事務局：**体力の効果のお話をいただいたが、概要版の部分についてはスペースの関係で入れることが出来ていない。本編の方の6ページと7ページをご覧いただきながらご説明させていただく。同一集団での併用というところで、中学校の男子と女子であるが、真ん中にT得点というのがあり、全国を50としたときに対象とする子どもたちが何点になるのかということ想定しているものになる。これは令和4年度今の中学2年生が小学5年生のときのデータである。そのため、小学5年生のときに全国と比較してこういった状況だった子どもが今年是这样な結果になっている。例えば特徴的なものは上体起こしである。5年生のときはほぼ全国と同程度であったが、今回50よりもぐっと伸びて上に出てきているというのは、同じ子どもたちでも小学5年生から中学2年生にかけてこれぐらい変化したという大きな成長になっている。同様に、女子では今の中学2年生、種目でいくと50m走がすごく苦手な集団であったが、中学校に入ってまだまだ全国には多少及ばないものの、小学5年生のときより全国との差をぐっと近づけて来ている状況である。それから恵庭の子どもたちは、頑張りがきく子が多いので、シャトルランの結果が凄くいい。持久走のつらい種目であるが、そういったものが小学校のときに比べて中学校になるとすごく頑張れるようになり、結果も上に伸びている。同一集団で見ると、そういう傾向ができてきているのかなと思う。併せて下段の総合評価を同じように見ると体力運動能力が低い子ども、運動の苦手な子どもが中学2年生までの中で、やはり回復してきている状況というのは一つ読み取ることができる。あわせて、先ほどのT得点については、これを令和4年度からずっと並べていったときに、体力の合計について中学男子はこれまでの記録の最高のところまでポイントが伸びてきているという状況。それから女子については昨年度すごく良かったが全国との比較において、今年も超えてはいるが去年の中学2年生の方が体力運動能力的には全国との差においては少し差が大きかった。そのあたりもぜひ参考に見ていただければと思う。

**委員：**本校では、職員の中で生成A Iに長けている先生が二、三人いる。それから市からICTの職員が派遣されているため、何かわからないことがあるとみんなが質問している状

況であるため、私もAIに少し頼ってみようかなと思ったところである。

そういう世界で使えるものを自分で見つけて得意としていき、その分野で長けていく子どももたくさん出てくるんだろうなと感じる。そしてその分野でトップを走っている子がまた子どもたちに正しく教えてあげる。というサイクルが大事だなということを改めて感じた。

**委員長：**では最後にE委員、まとめの方をお願いしたい。

**委員：**私は去年からスマイルデジタルドリルに関わっており、市内の小学5・6年生と中学1～3年生を対象に、アンケート調査を集計している。子どもたちのデジタルドリルを使った学習について、授業ではどういう状況かというところ、やはり小学生と中学生とで差があり、週に3回以上の活用は小学校の5割以上を超えている状況であるが、中学校はその教科の指導のやり方もあるということではなかなか使いきれてないような状況であった。

ただ、家庭での使い方と言うと、例えば小学生では比較的学力の低い算数で非常に活用されている。やはり子どもたちもドリルをうまく活用していこうという意識が強い傾向にあると感じている。中学生はその担当する教科の先生にもよると思う。また学校での取り組みによって、この学校は数学を主に使っているけど、この学校は理科の方がよく使っているとか、意外と差があったりしている。中学生は自分で勉強することが多くなってきているため、例えばデジタルドリルを使うだけじゃなくても、学校の宿題があったり、塾で出てきた宿題をやらないといけないということもあり、アンケートの中だけでいえば、一概には使っている・使っていないという比較にはなっていない。

特に今回中学生では授業で使っているドリルだけでなく、タブレットの活用をしたら、授業が楽しくなるかとか、お互いの交流や理解力が深まっている、という意見も多い。そういう面でいうとデジタルドリルを使った子どもたちには少しずつ浸透してきているし、先生方なんかでも活用されているのかなという印象を受けている。

## 6. その他

**事務局：**小中一貫教育のリーフレットについて、こちらは情報提供となる。恵庭市の方では小学校と中学校までずっと積み重ねてきた実績があるが、もう一步踏み込んで9年間を見据えた一貫教育に向かうということで今年度検討会議を設けながら、折りに触れて議会でも意見をいただきながら、もうすぐこの小中一貫教育基本方針も完成間近というところまで来ている状況である。リーフレットにある通り、令和9年4月からスタートしますとあるが、令和8年度はその移行期間、準備期間というような位置づけをしている。今まさに年が明けてからこういう動きを恵庭市ではしているということを学校運営協議会や、町内会連合会の総会でもリーフレットを配っていただいている。学力体力の推進会議の委員の

皆さんにも情報提供ということで配布させていただきました。

委員長に触れていただいた通り本年度の会議については、本会議をもって最後となる。委員の皆様方には、貴重な意見をご提案いただき本当にありがとうございます。

いただいたご意見を今後の学力体力向上に繋がるよう、市教委と学校とも取り組んでいきますので、次年度も引き続き、恵庭市の学力体力向上にご協力いただきますよう、お願い申し上げます、最後とさせていただきます。

## 7. 閉会